

平成21年度認定 (No. 57)

農業名人

ぶどう栽培名人 しば 柴 ひさし 壽

昭和11年生まれ 上伊那郡箕輪町在住

長野県のぶどう栽培の第一人者



昭和34年から長野県職員として長野県農業関係試験場に勤務、一貫して果樹の試験研究に携わり、主にぶどうの栽培からワインの醸造を含む加工までの全般にわたり技術開発・集積に努めた。特に大粒系品種の「巨峰」については、栽培、土壌肥料、病虫害駆除など幅広い研究に従事し、収量向上、高品質安定生産技術を確立し、消費者からも高い評価を得て、その栽培は長野県のみならず全国に拡大し、わが国の最も有力な品種に育つことに大きく貢献した。この業績が評価され、「平成5年度研究功労賞」を、平成8年には、農業技術協会から「第52回農業技術功労者表彰」を、平成21年には農業技術開発功労者として大日本農会から「名誉賞状」を受けた。

平成9年3月に県を退職後、長野県原種センターを経て平成14年3月に同センターを退職、以後、ぶどうとりんごを中心に約1haの農業経営を行い、その中で県果樹試験場時代から取り組んでいた生食の高品質種無しぶどう「ナガノパープル」の露地栽培における土壌水分管理を中心とした裂果防止対策について研究・実践を重ね、10年間の取り組みの結果、裂果発生が大幅に改善でき、皮ごと食べられるぶどうとして注目され、栽培マニュアルの整備とともに技術指導にも取り組んでいる。

ぶどうの生産は、樹相診断を行い、適切な肥培管理から好適樹相を維持することが良品生産と省力栽培を両立できるという考えに基づいて技術指導を行い、現在の長野県のぶどう生産の基礎を築いた。

地域においても様々な活動に参画しており、区長をはじめ区会議員、東箕輪営農組合役員、箕輪町農業委員等を歴任しているほか、第4次箕輪町振興計画審議会会長や、箕輪町グリーン・ツーリズム推進協議会会長も務めている。

地域の農業・農村の振興対策を図るため、平成15年8月に地区の有志30名で「もみじ湖夢クラブ」が結成され、その中心メンバーの一人として加わり、平成16年には「もみじ湖夢ワイン」の生産を目指し、33aのほ場にワイン専用品種のメルロー、

シャルドネ等を新植した。「嘘のない基本に忠実な農業」をモットーとして、農業試験場で培った技術やノウハウを遺憾なく発揮し、草生栽培による土作りと樹づくり、着果管理から肥料、除草剤を用いない低農薬等の技術指導・伝承実践の場として後継者育成にも力を注いでいる。今後、時代のニーズに合ったくだものの生産地を創り上げるため、共に楽しみながら育て、達成感を共有できる仲間作りの輪を広げて行くことを目指している。

